

長崎伝習所 Nagasaki Denshusho



長崎には、「このまちをもっとよくしたい!」「大好きな長崎のために何かやりたい!」という熱い思いや、「こんなことをやったらいい!」というユニークな発想を持つ市民の方が大勢います。そのような市民の皆さんのエネルギーと自由な発想こそが、魅力的な長崎を創りあげる原動力となります。

長崎伝習所は、そのような熱意とアイデアを持つ人々や、それに共鳴する人々が集まり、協力して活動できる場となります。テーマごとに市民の皆さんが「塾」を設置し、塾生を募集して、塾長を中心に市民と行政が協働で「塾」事業を展開しています。

長崎伝習所の目的

長崎伝習所は、市民と行政が有機的に連携することにより、人材の育成・ネットワークづくりと政策を生み出す活動を行い、地域の活性化と発展に寄与することを目的としています。名称の由来は、幕末期に長崎に設置された「海軍伝習所」や「医学伝習所」などからきているもので、その輝かしい歴史に学ぼうという意味が込められています。

設立からの経緯

長崎伝習所は、昭和61年度に人材のネットワークづくりと地域の活性化を目的に、異業種交流の場として、海洋開発、都市デザイン、バイオテクノロジーなどをテーマに「塾」が設置され、しだいに長崎の再生を模索する幅広い活動の場となってきました。

昭和63年の「ふるさと創生1億円」を基に、平成元年度に「長崎伝習所基金」を創設し、市民と行政が有機的連携を強化することにより、人材の育成と政策を生み出す活動を行い、もって長崎の再生と創造に寄与することを目的とする「長崎伝習所」の活動に充てています。

設立以来、長崎を魅力ある元気なまちにするために、市民と行政が力を合わせて研究活動を行い、令和5年度末までに306塾が活動を展開し、塾卒業生は10,328名に達しています。

これまでに、川さるく森川里海塾による「ながさきよか川マップ」の作成、長崎の町ねこ調査隊塾による町ねこ調査の実践、わが町公園 de 元気塾の活動の中から、全市一斉ラジオ体操が行われるなどの成果が生まれているほか、現在も積極的に活動を継続している塾は多数あります。

その他にも平成23年度から令和4年度にかけて、市民の皆さんが日本のトップクラスの方と接する機会を設けることにより、視野を広め、長崎の活性化に向けて行動するきっかけとなることを目的に、各界の著名人の方にプロデュースをお願いする、自分新化講座を開催いたしました。

● 主な卒業塾の活動状況

長崎くんち塾…くんちデータベースの作成・くんち関係書籍の発行

国際交流塾…「地球館」の運営、外国人・留学生との交流事業

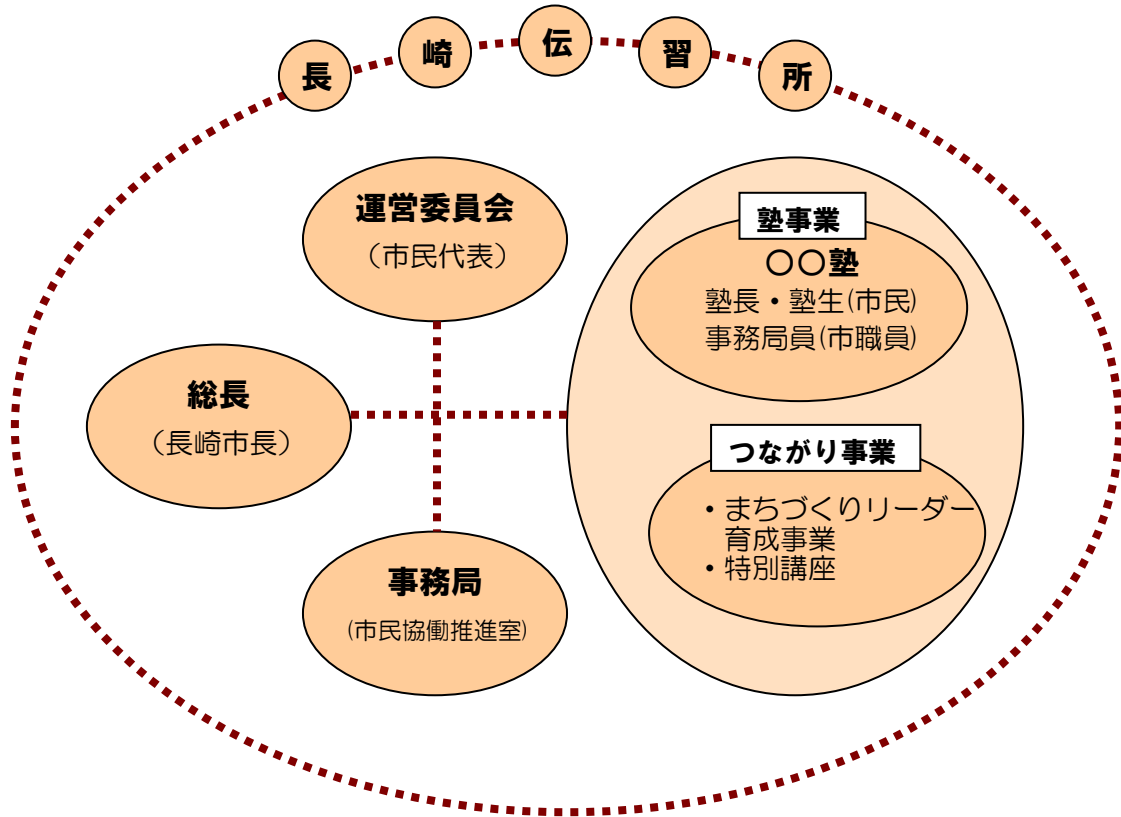
生ゴミシェイパース塾…生ゴミ堆肥化の普及活動

伝統工芸塾(銀細工、現川焼、長崎刺繍、長崎の染め、ステンドグラスの5塾)…歴史文化博物館の体験工房で活動



運営体制

塾テーマの選定から塾の運営まで、すべてを市民自らの手で行うのが、長崎伝習所「塾」の特色です。



「塾」とはこんな場所

「塾」といっても、誰かに教えてもらうところではありません。市民の皆さんから長崎のまちづくりにつながる企画や塾長を公募し、運営委員による審査会を経て、「塾」を設置。その趣旨に共感、共鳴する市民の皆さんが集まり、調査研究やイベント、実践活動など様々な活動を展開しながら、魅力的なまちづくりを進めていこうというものです。

- 塾 …………… 市民が主体となって、自主的、自律的に活動する場
 - 塾長 …………… 塾運営の責任者
 - 塾生 …………… 塾のテーマに基づき活動する参加者
 - 塾事務局員 …… 塾と行政とのパイプ役になる市職員
- 運営委員会 …………… 設置する塾の審査や塾の活動内容等についてのアドバイス等を行う機関





「塾」活動の流れ

12～1月 塾テーマ・塾長 募集



2月中旬 審査会



4月 塾生 募集



5月 開所式



11月 中間報告会



3月 長崎伝習所まつり



3月 成果報告書作成

卒業後 フォローアップ補助金



自立して活動する塾

市民の皆さんから「塾」活動企画を募集

塾長候補者が応募用紙に設置目的、研究・活動内容、対象塾生、塾開催運営方法、成果品内容、連携したい部署、予算などを書いて応募。

運営委員による審査会で新年度活動塾を決定

塾長応募者からのプレゼンテーションで審査により決定。

継続申請(2・3年目)

塾活動は単年度事業が原則ですが、活動を継続する場合、継続申請し、運営委員会の審査を受け、継続を決定。

広く市民に呼びかけ、塾生を募集

塾の趣旨に共鳴、共感し、一緒に活動する塾生を募集。4月下旬に塾生を確定。

塾生が一堂に会し、塾活動をスタート

塾長と塾生の初顔合わせの開所式を開催。開所式後に第1回塾会議を行い、連絡体制や役割分担、定例会の日程や場所等を決め、塾活動開始。

塾の活動状況を運営委員会に報告

塾活動の状況を運営委員会に報告し、以降の活動へのアドバイスを受ける。

各塾の活動の歩み・成果を広くアピール

塾活動の成果を広く市民の皆さんなどに知っていただくために「長崎伝習所まつり」(成果報告会)を開催。

塾活動の成果・提言をまとめた成果報告書を作成

各塾の成果・提言をまとめた成果報告書を作成し、長崎伝習所ホームページ上で公開。

卒業塾の活動

卒業塾の活動支援

伝習所卒業後2年間は塾の自立促進のために設けられている「長崎伝習所フォローアップ補助金」の申請が可能。サポートを受けながら、活動を継続し自立を図る。